

2019年度 夙川中学校入学試験

国 語

第 3 回

(注 意)

解答用紙は、この問題冊子の中央にはさんであります。まず、解答用紙を取り出して、
受験番号と氏名を記入しなさい。

1. すべての問題を解答しなさい。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 字数制限のある問題については、記号、句読点も1字と数えること。
4. 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰りなさい。

学校法人 須磨学園 夙川中学校

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「農業は自然破壊なのだろうか」という問いには、三つの答え方があります。

まず、人間の手の入っていない原生自然を理想的な自然だとすると、農業は自然に手を入れるので、明らかな自然破壊です。このように自然と人間を対立するものだと考えるのは、西洋で生まれた考え方ですから、しかたがないでしょう。もともと「自然」（英語ではNature）とは、人間イカイをさす言葉として、西洋で生まれたものです。

そこで、自然とは人間つまり人為をも包含するものだと考えるなら、田植えの結果として田んぼで生まれる赤トンボはもとより田んぼ自体も自然の代表選手になり、農業は

X 自然を支えるものだということになります。しかし、その人為の程度が問われはじめたのは、農薬や化学肥料が使われはじめた一九五〇年代からです。それまでは、農業は自然そのものだったと言っても、言いすぎではなかったでしょう。

したがって現代では、もう一つの答え方をするしかなくなってしまうました。農業はやり方によっては自然破壊であり、やり方によっては自然保全的だ、と答えるしかありません。とくに、現代の農業は生産効率を上げること（これを近代化と呼びます）ばかり求められているので、自然破壊的にならざるをえなくなっています。

したがって、減農薬や環境保全型農業、有機農業などが、それを解決するシュルダンとして登場してきました。重要なことは、なぜ農業は近代化すると自然環境を犠牲にせざるをえないかということです。

Y、農薬や化学肥料などの資材を使用するからだけでなく、もっと深い原因があるのです。

たとえば、農薬や化学肥料を使用しない有機農業であっても、生産効率を求められています。手植えで田植えするのは、時間がかかるので、ほとんどの百姓が田植機で田植えしています。田植機の苗はほとんどが長方形の小さな苗箱に種籾をまくので、水苗代がなくなりました。そうすると、苗代に産卵していたトノサマガエルは、産卵する場所がなくなってしまうのです。

このように、機械化によって、百姓仕事が変わると生きものは影響を受けます。これも自然破壊だと言えるでしょう。

Z 田植機と、稲を収穫するコンバインの普及によって、サンカメイチュウという害虫は絶滅しました。

田植機で植える苗は小さいので、幼虫が育ちにくく、またコンバインで稲わらを細かく切断するので、幼虫が死んでしまうのです。害虫がいなくなればいいではないかと思うかもしれませんが、サンカメイチュウのテンテキたちも絶

滅していきました。これも自然破壊の一例です。

また近代化は、労働時間の短縮を目標に掲げるものです。人件費が安くすむからです。私はこれが、近代化によって自然が破壊される元凶だと考えています。百姓仕事を楽しければ、かかる時間が長くてもいいではありませんか。

友人の親子の話です。息子がこう言います。「お父さん、朝も昼も、田んぼの稲を見に行つたろう。また夕方行く必要はないだろう。何の変化もないよ」。父親はこう言い返していました。「変化はないかもしれないが、稲の顔を見ておきたいんだ。おまえだって、夕食のときに見ているのに、寝るときには、また娘の顔を見て寝床につくではないか」。息子はそれでは引き下がりません。「農業は子育てとはちがうよ。産業としてさらに効率を上げるように国民から要請されているんだ」。

一九六〇（昭和三五）年には、一〇アールあたりの労働時間は一九三時間でしたが、現在では三〇時間を切っています。機械化され、労働時間が減つたということもありますが、田んぼや稲と向きあう時間を犠牲にせざるをえなくなつたのです。稲をわが子のように感じるのではなく、生産性を上げるタイショウとして見るようになってきたのです。

私の経験です。その日はほかの仕事が忙しくて、夕方に田んぼを見に行きませんでした。翌朝田んぼに行くと、田んぼが干がっていました。畦にモグラの穴が開いて、水漏れして、下の田んぼまで水が行かなくなっていたのです。その田んぼのオタマジヤクシは死んでいました。もし私が夕方に行っていたなら、気づいて、オタマジヤクシも死なずにすんだでしょう。こうしたことが積み重なって、生きものに大きな変化が生じてきています。

多くの都道府県で「絶滅危惧種」を発表しているので、調べてみてください。そのうち、田んぼや水路やため池の動植物が、約三割を占めています。これは農薬のせいもありますが、それだけではありません。生産性を上げたために、多くの生きものが生きにくい田んぼになつてきているのです。

（宇根豊『農は過去と未来をつなぐ』による）

注1 種籾：種としてまくために選んだ、外皮に包まれたままの米。

注2 コンバイン：収穫と脱穀をするための機械。

注3 人件費：従業員に支払う給料。

注4 元凶：悪い状況を作り出す原因。

注5 アール：面積の単位。

注6 干がって：水分がなくなつてからからになる。

注7 畦：水田の境界として土を細長く盛り上げた所。

一の設問

問一 線部 a～d を適当な漢字に直して答えなさい。

- a イガイ b シュダン c テンテキ
d タイシヨウ

問二 X Z に入れるのに適当な語を次の中か

らそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。ただし、同じ語を二度使ってははいけません。

- 1 だが 2 むしろ 3 けっして
4 さて 5 また 6 それとも

問三 「農業は自然破壊なのだろうか」という問いには、

三つの答え方があります」(線部ア)とありますが、その答え方として誤っているものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 農業は西洋の考え方をもとにすると、理想的な自然に手を加える自然破壊である。
2 自然には人間も含まれると考えると、農業は自然を支えるので自然破壊ではない。
3 農業は自然破壊だとも考えられるが、自然を効率良くつくりあげていくとも考えられる。
4 農業は方法次第で自然をこわすことも、守ることもできるものである。

問四 「百姓仕事を楽しければ、かかる時間が長くてもいい

ではありませんか」(線部イ)とありますが、ここから読み取れる筆者の考えについて説明したものとして最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 生産効率にとらわれることなく、やりがいをもちながら手間をかけて農業をするべきだ。
2 労働時間の短縮を目標にしながらも、機械化に頼らない農業をするべきだ。
3 時間をかけなければ、農業の楽しさは分からないということを意識するべきだ。
4 機械化することなく、自分の時間を犠牲にすることを第一に考えるべきだ。

問五 「変化はないかもしれないが、稲の顔を見ておきた

いんだ」(線部ウ)とありますが、このように父親が述べるのはなぜですか。その理由を説明したものとして最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 息子の考えが間違っていることを示したいから。
2 息子を説得しようと必死になっているから。
3 稲を自分の子のように大切に思っているから。
4 機械では稲を育てられないとわかっているから。

問六 「私の経験です」(線部エ)とありますが、自

分の経験を述べている筆者のここでの意図はどのようなものですか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 自分の失敗談から、親子のような話がありふれた日常的なものであることを強調するため。
2 自分の体験を追加することで、農業の楽しさをより説得力をもった形で伝えるため。
3 自分の失敗談から、多くの人に絶滅危惧種を守る方法を具体的に知ってもらうため。
4 自分の体験を書くことで、稲作と向き合う時間をとることの必要性を分かりやすく伝えるため。

問七 「多くの生きものが生きにくい田んぼになってきてい

るのです」(線部オ)とありますが、それはなぜですか。本文の内容をふまえて、「農業」という言葉を使わずに五〇字以内で説明しなさい。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

(なお、本文中に一部、現在では不適切と思われる表現がありますが、作者の意図や書かれた当時の社会状況を考慮して、そのまま出題しています。)

「幸福」がいろいろな家へ訪ねて行きました。

誰でも幸福の欲しくない人はいませんかから、どこの家を訪ねましても、みんな大喜びで迎えてくれるにちがいないりません。けれども、それでは人の心がよく分りません。そこで「幸福」は貧しい貧しい乞食のような服装をしました。誰か聞いたなら、自分は「幸福」だと言わずに「貧乏」だと言いつもりでした。そんな貧しい服装をしていても、それでも自分をよく迎えてくれる人がありましたら、その人のところへ幸福を分けて置いて来るつもりでした。

この「幸福」がいろいろな家へ訪ねて行きますと、犬の飼つてある家がありました。その家の前へ行つて「幸福」が立ちました。

その家の人は「幸福」が来たとは知りませんから、貧しい貧しい乞食のようなものが家の前にいるのを見て、

「お前さんは誰ですか。」と尋ねました。

「わたしは「貧乏」でございます。」

「ああ、「貧乏」か。「貧乏」は吾家じやお断りだ。」
とこの家の人は戸をびしゃんとしめてしまいました。おまけに、その家に飼つてある犬がおそろしい声で追いつてるように鳴きました。

「幸福」は早速ごめんを蒙りまして、今度は鶏の飼つてある家の前へ行つて立ちました。

その家の人も「幸福」が来たとは知らなかったと見えて、いやなものでも家の前に立ったように顔をしかめて、

「お前さんは誰ですか。」と尋ねました。

「わたしは「貧乏」でございます。」

「ああ、「貧乏」か。「貧乏」は吾家じや沢山だ。」
とこの家の人は深い溜息をつきました。それから飼つてある鶏に気をつけました。貧しい貧しい乞食のようなものが来て鶏を盗んで行きはしないかと思ったのでしよう。

「コッ、コッ、コッ、コッ。」
とこの家の鶏は ※ 声を出して鳴きました。

「幸福」はまたその家でもごめんを蒙りまして、今度は兎の飼つてある家の前へ行つて立ちました。

「お前さんは誰ですか。」

「わたしは「貧乏」でございます。」

「ああ、「貧乏」か。」

と言いましたが、その家の人が出て見ると、貧しい貧しい

い乞食のようなものが表に立っていました。その家の人も「幸福」が来たとは知らないようでしたが、なさけというものがあると見えて、台所の方からおむすびを一つ握つて来て、

「さあ、これをおあがり。」

と言つてくれました。その家の人は、黄色い沢庵たくあんのおこ注うこまでそのおむすびに添そえてくれました。

「グウ、グウ、グウ、グウ。」

と兎は高いいびきをかいて、さも楽しそうに昼寝をしていました。

「幸福」にはその家の人の心がよく分りました。おむすび一つ、沢庵ひしき一切にも、人の心の奥は知れるものです。それをうれしく思ひまして、その兎の飼つてある家へ幸福を分けて置いて来ました。

(島崎藤村「幸福」による)

注 おこうこ…香の物。漬け物のこと。

二の設問

問一 「ごめんを蒙りまし(ごめんを蒙ります)」「(線部ウ)

線部)について、本文と同じ意味で使用した例文として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 こんな大変な仕事はごめんを蒙ります。
- 2 家主のごめんを蒙りまして家の中に入りました。
- 3 夜遅おそくなりましたので、そろそろごめんを蒙ります。
- 4 あなたの代わりなんてまっぴらごめんを蒙ります。

問二 ※に入れるのに最も適当な語を次の中から一つ

選び、番号で答えなさい。

- 1 ほこり高い
- 2 用心深い
- 3 気高い
- 4 なさけ深い

問三 「そこで「幸福」は貧しい貧しい乞食のような服装

をしました。誰か聞いたら、自分は「幸福」だと言わずに「貧乏」だと言うつもりでした」(線部ア)とありますが、その理由として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 自分から「幸福」だと言うと人は信じないと考え、「幸福」に見えない服装で人を信用させようとしたから。
- 2 「幸福」はいろいろな家を訪ねたかったので、一つの家でつかまってしまうのを嫌がったから。
- 3 「幸福」に見えない服装をして訪ねて行っても、自分は「幸福」だと人に気づいてほしかったから。
- 4 「幸福」を前にしたら人は本心を出さないと考え、わざと人の嫌がる服装で人の気持ちを試そうとしたから。

問四 「その家の人は戸をびしゃんとしめてしまいました

た」(線部イ)、「その家の人は深い溜息をつきました」(線部ウ)とありますが、この時の家の人の心情として最も適当なものを後からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

「その家の人は戸をびしゃんとしめてしまいました」(線部イ)

- 1 「貧乏」を徹底的に拒絶して、排除する気持ち。
- 2 「貧乏」に、どこかよそへ行くのをすすめる気持ち。
- 3 「貧乏」に反発し、最後まで戦おうという気持ち。
- 4 「貧乏」を説得し、納得してもらおうという気持ち。

「その家の人は深い溜息をつきました」(線部ウ)

- 1 「貧乏」にあげる物がなく申し訳ないという気持ち。
- 2 「貧乏」にしつこくつきまとわれ迷惑めいわくする気持ち。
- 3 「貧乏」でなく「幸福」に来てほしかった気持ち。
- 4 「貧乏」と関わることもう苦労したくない気持ち。

問五 「それをうれしく思いました」(線部エ)とあ

りますが、「幸福」は、どのようなことをうれしく思ったのですか。六〇字以内で具体的に答えなさい。

問六 本文から読み取れる「幸福」の性格として最も適当

なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 幸福を分け与える相手を選ぶために、わざわざ嘘うそをつくようなたがい深い性格。
- 2 いろいろな家に行つて自分を受け入れてもらいたいと願うさみしがり屋の性格。
- 3 一度自分を否定されると、すぐにあきらめて逃げってしまう気の弱い性格。
- 4 人の心が知りたいためにいろいろな家に行く好奇心こうきしん旺盛おうせいで明るい性格。

問七 本文中の表現について説明したものととして誤あやつてい

るものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 「幸福」を人間に見立てて表現することで、幸福のあり方を読者に考えさせている。
- 2 家で飼われている動物のそれぞれの様子が、その家の人の「貧乏」に対する態度と重なっている。
- 3 家の中と外を描き分けることによって、家の持つ役割とは何かを読者に考えさせている。
- 4 態度の違いを強調するために、それぞれの家で同じ問答を繰り返している。

受験番号			

名前	
----	--

夙川中学校 第3回入学試験解答用紙 国語

																(※の欄には、何も記入してはいけません)	一
問七				問六		問五		問四		問三		問二		問一			
										X		d		a			
												Y		b			
												Z		c			

--

																(※の欄には、何も記入してはいけません)	二
問七		問六		問五				問四		問三		問二		問一			
								イ									
								ウ									

--

--